

ミス防止！

訂正仕訳

逆仕訳

パターン別修正マニュアル



※ 本資料は参考情報であり、法令等への適合性や内容の正確性・完全性について、一切保証するものではありません。
制度の適用にあたっては、必ず公的資料等をご確認ください。

※ 本資料の情報は、2026年3月作成時点のものであり、変更される可能性があります。ご利用の際は、必ず最新情報を公的機関にてご確認ください。

訂正仕訳・逆仕訳の使い分け

日々の記帳において、金額の打ち間違いや勘定科目の選択ミスは避けられないものです。大切なのは、誤りに気づいた際、単にデータを削除するのではなく、「何をどう直したか」という履歴を残して帳簿の正確性を保つことです。

訂正仕訳・逆仕訳の使い分け

間違いの種類によって、修正の仕方は大きく2つに分かれます。

✓ 訂正仕訳

間違った部分だけを修正する方法。金額や勘定科目を直すときなど。

✓ 逆仕訳

一度間違った仕訳を丸ごと打ち消すために、同じ仕訳を借方・貸方を逆にして入力し、そのあとに正しい仕訳をあらためて入力する方法。

いずれの仕訳も、修正対象となる仕訳はどれか摘要に記載しておきましょう。

ミスの内容	一般的な修正方法	概要
金額の間違い	訂正仕訳または逆仕訳	正しい金額との「差額」を仕訳して調整する。または逆仕訳で元の仕訳をゼロにしてから正しい仕訳を再入力する。
科目の間違い	訂正仕訳	誤った科目を打ち消し、正しい科目に振り替える
貸借が逆	逆仕訳 + 正しい仕訳	元の仕訳を逆仕訳でゼロに戻してから再入力する
取引自体が誤り	逆仕訳のみ	取引そのものが不要なため、逆仕訳で打ち消す

1 金額を訂正する仕訳（訂正仕訳）

金額のみが誤っている場合は、差額を調整する仕訳、または元の仕訳をゼロにしてから正しい仕訳を追加します。

過大計上 多く入力していた場合

本来5,000円の飲食代を、誤って7,000円と入力していたケース。差額の2,000円をマイナスします。

借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
現金	2,000	交際費	2,000	仕訳NO.〇〇： 金額過大分の修正

またはいったん元の仕訳をゼロにしてから新しい仕訳を入力します。

借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
現金	7,000	交際費	7,000	仕訳NO.〇〇： 誤仕訳の取り消し
交際費	5,000	現金	5,000	仕訳NO.〇〇： 正しい支払い記帳

過少計上 少なく入力していた場合

本来10,000円の備品代を、誤って8,000円と入力していたケース。不足分の2,000円を追加します。

借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
備品	2,000	普通預金	2,000	仕訳NO.〇〇： 金額不足分の追加記帳

またはいったん元の仕訳をゼロにしてから新しい仕訳を入力します。

借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
現金	8,000	備品	8,000	仕訳NO.〇〇： 誤仕訳の取り消し
備品	10,000	現金	10,000	仕訳NO.〇〇： 正しい支払い記帳

2 勘定科目を訂正する仕訳（訂正仕訳）

金額は正しいが、科目が誤っていた場合は「振替」の処理を行います。

借方科目を間違えた場合

新幹線代を「消耗品費」としていたが、正しくは「旅費交通費」だったケース。

借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
旅費交通費	13,000	消耗品費	13,000	仕訳NO.〇〇： 勘定科目の振替

3 貸借逆を訂正する仕訳（逆仕訳）

借方と貸方を逆に入力した場合は、2ステップで修正します。

例 交際費を現金で支払ったが、貸借を逆に
入力した

1 逆仕訳で誤った仕訳（現金／交際費）を打ち消し、2 正しい仕訳を入力します。

ステップ	借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
1 逆仕訳	交際費	12,000	現金	12,000	仕訳NO. 〇〇：誤仕訳 の取り消し
2 正しい 仕訳	交際費	12,000	現金	12,000	仕訳NO. 〇〇：正しい 支払い記帳

修正時の重要なチェックポイント

✓ 修正履歴を残す

前月以前の仕訳は、他者のチェックや上長の承認を受けているはずなので、基本的に削除してはいけません。前月以前の誤った仕訳を削除せず、修正のプロセスを帳簿に残すことで税務調査や監査時の信頼性が高まります。

✓ 日付の扱い

修正仕訳の日付は「実際に修正を行った月の1日または末日」で記帳するのが一般的です。

✓ 摘要欄の活用

何に対する修正なのか（例：「〇月の仕訳No.〇〇の金額訂正」）を摘要に記入しておき、修正する仕訳を明確にします。

✓ 逆仕訳の完全一致

逆仕訳を行う際は、元の誤った仕訳と金額・科目を逆にして完全に一致させないと、帳簿にズレが残ります。

